

米づくり情報 (NO. 4)

令和2年7月10日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	4	22.3	22.3	26.8	27.1	18.8	18.7	66.0	93.0	20.6	18.9
	5	23.1	24.6	27.1	30.5	19.9	19.4	84.8	196.0	16.8	38.4
	6	23.8	24.7	27.7	28.5	20.8	22.1	92.5	227.0	15.4	19.5
7月	1	24.6	22.8	28.4	26.5	21.7	19.9	84.2	22.5	17.9	14.5
	2	25.4	—	29.3	—	22.5	—	70.2	—	21.3	—
	3	26.1	—	30.1	—	23.0	—	60.6	—	24.1	—

【6月6半旬～7月1半旬の気象概況】

- ・気温、日照時間ともに平年並みからやや低く推移した。
- ・降水量は、7月の1半旬以外は平年よりかなり多く推移しており、6月25日(192mm)と6月27日(187.5mm)7月6日(197mm)、7月7日(208mm)は記録的な大雨となった。

2 生育状況 (7月10日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	62.2	346	10.9	45.5	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より低い ・莖数は、平年並 (※栽植密度が低いためm²当たり本数が少なくなっている。株あたり本数は平年並。) ・主稈出葉数は平年よりやや多い ・葉色は平年よりやや濃い
	平年値	70.6	387	10.3	43.5	
	平年比	88	89	+0.6	+2.0	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	28.4	77	7.1	41.5	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年よりやや低い ・莖数は、平年よりかなり少ない (※大雨による深水で分げつが抑制され莖数が少ない) ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は平年よりやや濃い
	平年値	31.0	216	7.4	40.5	
	平年比	92	35	-0.3	+1.0	
たんぼの夢 6/16 移植 松浦町桃川	本年値	35.0	293	7.9	46.9	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年よりかなり多い ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は、平年より濃い
	平年値	29.2	194	7.6	43.0	
	平年比	120	151	+0.3	+3.9	

(耕種概要)

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・幼穂形成期を迎えている。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参照し穂肥を施用する。
- ・梅雨に入り曇天の日が続いているため、「いもち病」などの発生に注意する。特に本年は移植後の生育が良好で茎数が多い圃場においては、病気が発生しやすくなるため注意深く観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10 a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
 - ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
 - ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
 - ④施用量が確認出来たら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥が施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

2) 普通期水稻「夢しずく」

【6月上旬移植】

- ・まもなく幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、上の表を参照し穂肥を施用する。

【6月中旬移植】

- ・分けつ期となっている。浅水管理でイネの健全化と分けつ確保に努める。
- ・ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・大雨で長期間深水状態になった圃場や冠水した圃場では、浅水管理を徹底しイネの健全化および莖数確保に努める。
- ・今後も降雨が予想されるため、大雨の際は水尻を低くし長時間の冠水を避ける。

※除草剤は、散布後3日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が安定するまでは湛水状態（水尻を止水し自然落水を待ち田面が見えてきたら入水するなど、土壤表面が白乾状態にならないようにする）を1週間程度保つようにする。ただし、除草剤散布後24時間以内に、大雨等によりオーバーフローした場合、1週間後の雑草発生状態を確認し除草剤効果が期待できない場合は、中後期剤等での防除を行う。

4) 共通

○病害虫防除

(いもち病)

- ・7月9日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では7月6日と9日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。



いもち病進展型病斑

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるためすみやかに除去する。

(ウンカ類)

- ・佐賀県嬉野市では、6/11に11頭、6/25~28に85頭、6/30~7/5に56頭、7/6に358頭のトビイロウンカの飛来が確認されており、この飛来波の今後の発生予測は次ページのとおりである（発生予測図は7/6更新）。
- ・今後の飛来状況により、発生予測図は随時更新される（梅雨明けまで飛来が続く）。
- ・防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

※本年のウンカの飛来量は、現在までに510頭確認されており、これは甚大なウンカ被害が発生した昨年の飛来頭数（6/9~7/22間の飛来頭数合計118頭）の約4倍の量となっている。

【普及センター、ウンカ類調査結果（25株はらい落とし）】

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
夢しずく	二里	5/24	1	0	2	2	2	0
		6/4	1	0	22	0	3	0
	東山代	6/1	5	0	6	0	2	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	0	0	0	0	0
たんぼの夢	松浦	6/16	1	0	11	0	0	0



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第2版、2020年7月6日作成)

1. 6月10～15日(図では6月11日)、6月25～28日(図では6月27日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月5日以降は平年値)を基に作成。

2. 6月11日頃の飛来虫は、普通期水稲にはほとんど定着していないと考えられる。

3. 今後の飛来状況および気象経過に応じて、**本図は随時、更新する。防除の考え方等については、今後の発生予測図の中に記載**していく予定である。

これらの**最新情報**は、農業技術防除センターの**ホームページ**で確認する。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業改良普及センター

